エコアクション２１

環境経営レポート

２０２３年度版

岩倉ビオトープ（愛知県）

対象期間（２０２２．１０．１～２０２３．９．３０）

作成　　令和５年　１０月　３１日

株式会社　静岡グリーンサービス

環境経営方針

環境理念

当社は、緑地整備事業・自然環境復元事業を通じて、街に四季の彩りを与え、またビオトープの造成や屋上緑化、環境調査設計、環境教育を行って、自然の営みに配慮した循環型社会の構築を目指します。

活動方針

環境経営に積極的に取り組むために、環境マネジメントシステムを構築し、継続的な環境負荷の低減に取り組みます。

１．地球温暖化防止のため、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
２．リサイクル材の利用を促進し、廃棄物の抑制・再資源化等、適正処理を行います。
３．産業廃棄物収集運搬において、エコドライブ・省エネ・排ガス抑制を実践します。
４．事務所内において使用電力の削減、使用用紙の削減、および節水に努めます。
５．環境関連法規等を遵守します。
６．化学物質を含有する農薬などの使用量を削減します。
７．グリーン購入を推進します。
８．生物多様性や野生動植物保全など環境に配慮した施工や提案を推進します。
９．環境保全などに関する講義等、地域貢献活動を推進します。

この方針を全社員に周知させ、また外部へ開示し、環境保全活動に取り組みます。

株式会社　静岡グリーンサービス

代表取締役　　櫻井　淳

制定日：　平成２０年１１月２６日
改定：　令和　１年１０月　１日

１．事業組織の概要

（１）　事業所名及び代表者

株式会社　静岡グリーンサービス

代表取締役　櫻井　淳

法人設立年月日　1969 年 2 月 6 日　　資本金　2,000 万円

（２）　所在地

本社事務所・倉庫　　〒４２５－００５７　　静岡県焼津市下小田５０８

電話　０５４－６２４－５５９３　　FAX　０５４－６２４－６７９４

E メール　info@greensv.co.jp

資材置場　　〒４２５－００４１　　静岡県焼津市石津４９４－２

〒４２５－０２０３　　静岡県焼津市藤守２８０５－４

（３）　環境管理責任者

自然環境復元事業部　杉山高史

（４）　事業内容

・緑地整備（公園整備工／修景設工／住宅庭園工／造園土木工／法面植生工／特殊舗装工）

・緑地管理（植栽・剪定工／芝地維持管理／病害虫防除工／除草工／施肥工／土壌改良工）

・自然環境復元（環境調査設計／ビオトープ設計・施工／ホタル・水生植物育成／近自然型河川工／水辺再生事業／ホタル飼育技術指導）

・産業廃棄物収集運搬業

（５）　事業規模

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
売上高　百万円	188	193	208	190	192（未定）
産業廃棄物収集運搬受託実績　t	0	1.22	13.27	0	36.52
従業員数　名	10	10	10	10	10
事業所床面積　㎡	294	294	294	294	294
工事件数　件　受注額百万円以上	41	41	26	37	
車両台数　台	9	9	9	8	8

（６）許認可

◎　静岡県知事許可（特－３）第４９０２号　（許認可日：令和４年１月１１日）

造園工事業、土木工事業、とび・土工工事業、水道施設工事業

◎　産業廃棄物収集運搬業許可　第０２２０１１３６９１１号

許可有効日（令和４年８月２４日～令和９年８月２３日）

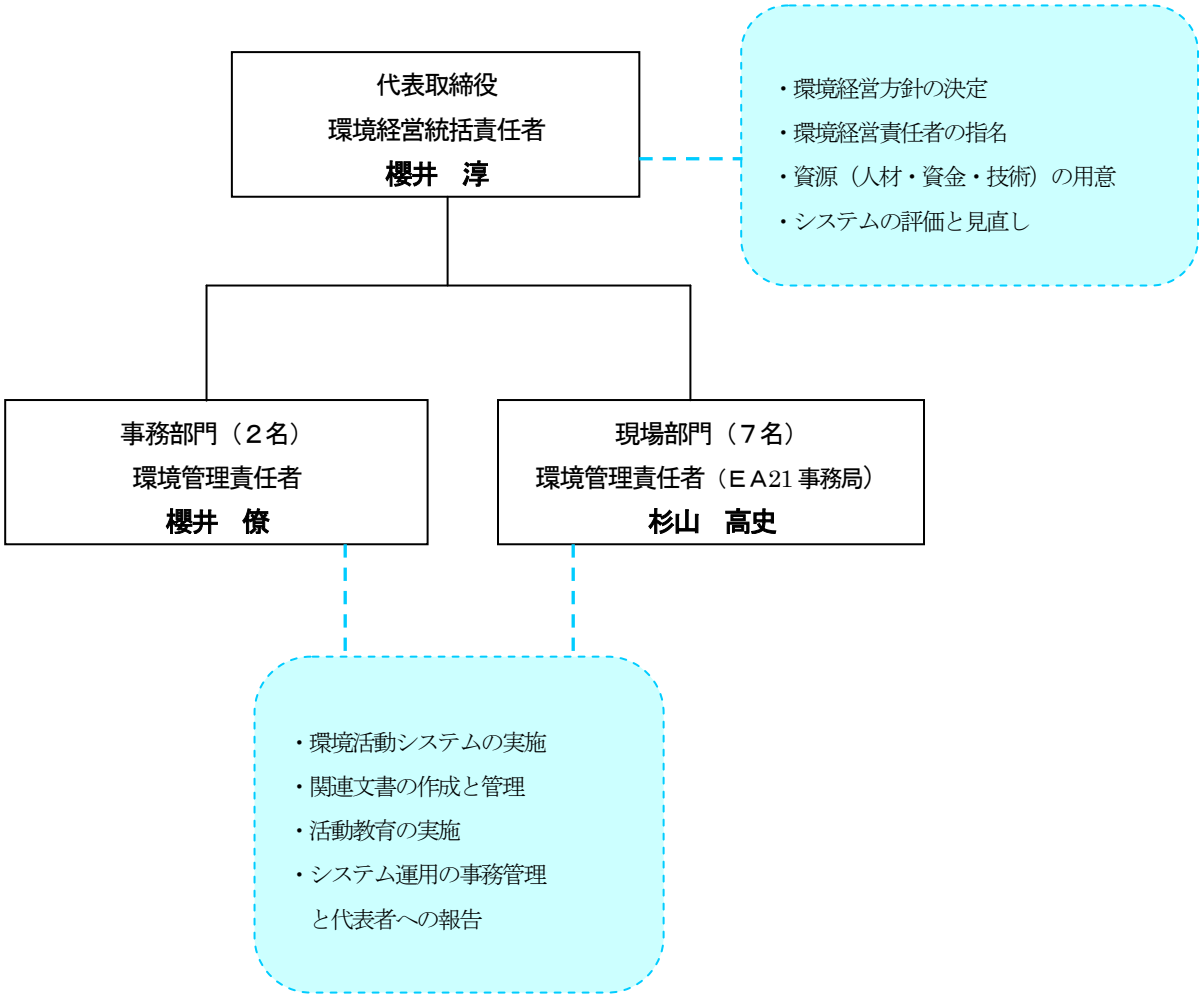
産業廃棄物の種類（廃プラスチック〈石綿含有廃棄物を除く〉、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず〈石綿含有廃棄物を除く〉、がれき類〈石綿含有廃棄物を除く〉、紙くず、木くず、繊維くず　以上 7 品目）

収集運搬車両（2ｔダンプ、3ｔダンプ、3ｔキャブオーバ　以上 3 車）

（７）加入団体

（社）静岡県造園緑化協会、日本ビオトープ協会、自然環境復元協会、
静岡県造園施工管理技士会、焼津環境緑化事業（協）

２．実施体制図


代表取締役
環境経営統括責任者
櫻井　淳
・環境経営方針の決定
・環境経営責任者の指名
・資源（人材・資金・技術）の用意
・システムの評価と見直し
事務部門（２名）
環境管理責任者
櫻井　僚
現場部門（７名）
環境管理責任者（ＥＡ21 事務局）
杉山　高史
・環境活動システムの実施
・関連文書の作成と管理
・活動教育の実施
・システム運用の事務管理
と代表者への報告

３．環境経営目標

（１）　環境負荷への短期目標　　(2023 年度の目標)

			単位	2020 年度 実績	2021 年度 実績	2022 年度 実績	2020 年～2022 年の 平均値　(基準値)	今年度の目標値	
								基準値比	目標数値
①　二酸化炭素排出量			$kg-CO_2$	42,636.3	37,627.6	43,679.2	41,314.42	-2%	40,488.13
		購入電力	KWh	14,780	11,957	13,835	13,524.00	±3%	13,524.00
		ＬＰガス	kg	7.0	5.7	8	6.90	±3%	6.90
		ガソリン	ﾘｯﾄﾙ	5,867.1	4,977.1	6,784.80	5,876.33	±3%	5,876.33
		軽油	ﾘｯﾄﾙ	8,652.35	8,307.76	8,535.21	8,498.44	±3%	8,498.44
②　廃棄物排出量	産業廃棄物	木くず	t	98.87	130.75	136.45	122.02	±3%	122.02
		ｱｽﾌｧﾙﾄ・ｺﾝｸﾘｰﾄ	t	0	0	0.2	0.07	±3%	0.07
		金属くず	t	0.731	0.047	0	0.05	±3%	0.05
		廃プラスチック	t	0.76	0.23	0	0.33	±3%	0.33
		混合物	t	3.25	1.3	7.43	3.99	±3%	3.99
		計	t	103.61	132.32	144.08	126.67	±3%	126.67
	一般廃棄物	可燃ゴミ	kg	128.0	97.2	87.2	104.13	±3%	104.13
		プラスチック	kg	12.4	0.23	9.6	10.80	±3%	10.80
		PET	kg	3.0	10.5	12	8.50	±3%	8.50
		不燃物	kg	4.0	7	5	5.33	±3%	5.33
		雑誌・ﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙ	kg	65.0	50	43	52.67	±3%	52.67
		計	kg	212.4	175.1	156.8	181.43	±3%	181.43
②　上水道			m^3	65	72	123	86.67	±3%	86.67
③　化学物質使用量　農薬		PRTR 対象	kg	4.8	8.59	10.09	7.83	±3%	7.83
		全量	kg	87.34	67.65	128.98	94.66	±3%	94.66
④　資源使用量		コピー用紙	kg	60.0	40	40	46.67	±3%	46.67
⑥グリーン購入		ねっと	%	62.5	45	43	50.17	±3%	50.17
		G 法	%	65.2	50	38	51.07	±3%	51.07
⑦環境に配慮した施工・提案			件	10	7	5	7.33	+3%	7.55

※二酸化炭素排出係数は、2018 年度と 2019 年度実績は中部電力（株）2016 年度実績の 0.485kg-CO2/kWh を使用し、2020 年度実績は中部電力（株）2018 年度実績の 0.452kg-CO2/kWh を使用しました。
※グリーン購入の「ねっと」は『エコ商品ねっと掲載』商品、「G法」は『グリーン購入法適合』商品です。

（２）　環境負荷への中長期目標

※2020 年度～2022 年度の 3 年間の平均値を基準にして、その何%削減を目指します。
※ほぼ現状維持を目指します。

			基準値		2023 年度目標	2024 年度目標	2025 年度目標
① 二酸化炭素排出量			kg-CO_2	41,314.42	−2%	−2%	−2%
		購入電力	kWh	13,524.00	±3%	±3%	±3%
		LP ガス	kg	6.90	±3%	±3%	±3%
		ガソリン	ﾘｯﾄﾙ	5,876.33	±3%	±3%	±3%
		軽油	ﾘｯﾄﾙ	8,498.44	±3%	±3%	±3%
② 廃棄物	産業廃棄物	木くず（剪定枝・草等）	t	122.02	±3%	±3%	±3%
		ｱｽﾌｧﾙﾄ・ｺﾝｸﾘｰﾄ	t	0.07	±3%	±3%	±3%
		金属くず	t	0.05	±3%	±3%	±3%
		廃プラスチック	t	0.33	±3%	±3%	±3%
		混合	t	3.99	±3%	±3%	±3%
		計	t	126.67	±3%	±3%	±3%
	一般廃棄物	燃えるゴミ	kg	104.13	±3%	±3%	±3%
		プラスチック	kg	10.80	±3%	±3%	±3%
		ＰＥＴ	kg	8.50	±3%	±3%	±3%
		不燃物	kg	5.33	±3%	±3%	±3%
		雑誌・ダンボール	kg	52.67	±3%	±3%	±3%
		計	kg	181.43	±3%	±3%	±3%
③ 水道			m^3	86.67	±3%	±3%	±3%
④ 化学物質使用量　農薬		PRTR 対象	kg	7.83	±3%	±3%	±3%
		全量	kg	94.66	±3%	±3%	±3%
⑤ コピー用紙			kg	46.67	±3%	±3%	±3%
⑥ グリーン購入		エコ商品ねっと掲載	%	50.17	±3%	±3%	±3%
		グリーン購入法適合	%	51.07	±3%	±3%	±3%
⑦ 環境に配慮した事業の施工・提案			件	7.33	＋3%	＋3%	＋3%

※二酸化炭素排出係数は、中部電力（株）2019 年度実績の 0.426kg-CO2/kWh を使用しました。

４．環境経営計画　(2023 年度版)

環境負荷の主因となる二酸化炭素排出量を削減するために、石油燃料使用量、電気使用量、コピー用紙使用量などを削減していく活動を全社員及び下請業者に徹底して行なっていく。また、廃棄物の適正な処分をおこない、緑化推進実績量を増加させるよう営業努力をしていく。

以下の項目について、従業員各位にチェックリストを配布し、実施状況の確認と啓発を実施する。

①　二酸化炭素排出量の削減

＊　化石燃料の使用量を削減させる。(現場部門)

・エコドライブを徹底して、燃費の向上を図る。余裕を持った運転計画を。
・急発進、急ブレーキの禁止。エンジンブレーキの積極使用。
・車両ごとに給油毎に走行距離と給油量を記録して、車両の使用状況と燃費の把握に努める。
・タイヤ空気圧を定期点検する。(1 ヶ月毎)
・アイドリングストップを徹底する。車両も重機も。　　※車輌にステッカーを貼る
・冷暖房は控え目に使用する。
・乗り合いや積荷の運搬を効率的に行い、計画的な通行ルートを心がける。

＊　電気・ガスの使用量を削減させる。(事務所部門)

・昼休みは事務所の消灯をして、パソコンの電源をＯＦＦにする。
・事務所、倉庫、飼育小屋の不要時の消灯をこまめに行う。
・冷暖房の控えめに使用する。　(冷房２８℃、暖房２０℃)　※設定温度を表示する。
・ガス・水道の節約につとめる。　※推進を促す表示をする。
・漏水や元栓の締め忘れが無いように、使用量の毎月のチェックや水栓の定期的なチェックを行う。

②　排水量の削減

＊　水道の使用量を削減させる。(全社)

・水道の節約につとめる。　※推進を促す表示をする。
・薬剤散布や車両・道具などの洗浄は、地下水や雨水を使用する。

③　廃棄物排出量の削減

＊　コピー用紙の使用量を削減させる。(事務所部門)

・コピー失敗紙の再使用や両面コピーを行う。　※推進を促す表示をする。
・印刷する前に、印刷プレビューの確認徹底を図る。
・事務連絡などは電子メールを積極的に活用し、紙の使用量を削減する。

＊　廃棄物の適正な処分をおこない、排出量の削減をする。(全社)

・事務所や現場で発生した廃棄物は、分別用のコンテナなどを設置して分別を徹底し、適正な処分業者に処分依頼する。

草・枝・根	(処分先) 木材開発・AC ﾌｭｰｴﾙ　重量　t
残土・CO ガラ	(処分先) 静岡砕石　重量　t
プラスチックほか	(処分先) 中部砕石　重量　t
金属	(処分先) 桜井資源・中部砕石　ｋｇ
紙類ほか事務所一般廃棄物	ｋｇ　分別処分
ダンボール	ｋｇ　分別処分
空き缶・ペットボトル	ｋｇ　分別処分

④　化学物質の利用削減（現場部門）

＊　農薬の適正な使用をする。

・PRTR 制度対象物質が含まれる薬剤については、特に取扱いに注意して使用量を管理する。また、より安全な薬剤への変更や使用量を減らす方策を考える。

⑤　グリーン購入の推奨（事務所部門）

・文具や用紙など事務用品について、グリーン商品やエコ商品を購入していくことを推進する。

⑥　環境に配慮した事業の推進（全社）

＊　緑化推進実績量を増加させる。

・樹木や地被類など緑化実績を増加させるような営業努力をする。

・環境負荷を低減させる設計を積極的に提案していく。（ビオトープや屋上緑化、リサイクル材使用など）

・ビオトープ管理など野生動植物を保全する事業・活動を推進する。

＊　地域貢献活動

・環境教育や自然観察会などの活動を積極的におこなっていく。

⑦　安全管理（全社）

・作業中の事故・ケガを防止する対策を徹底する。チェーンソーや剪枝機を使う作業、脚立を使う作業、幹線道路における作業など。作業前のＫＹ活動を行う。

・猛暑時期の熱中症対策をしっかりおこなう。水分補給、塩分補給、小休憩など。

・害虫対策（スズメバチ、ドクガ、かぶれ木など）をしっかりおこなう。殺虫剤、むし刺され薬などの常備。

・災害時の避難場所、避難経路、病院・消防・警察の場所や連絡先などを確認する。（各現場）

・会社近隣（焼津市や藤枝市）・現場所在地のハーザードマップで、災害危険度を確認する。

５．環境経営計画の取組結果（2023 年度）　　環境への負荷取りまとめ

			単位	2020 年～2022 年の平均値（基準年）	2023 年度（目標）		2023 年度　実績		
								基準年との比較	評価
①　室効果ガス排出量	二酸化炭素		kg-CO_2	41,314.42	−2%	40,488.13	38,243.38	−7.43%	○
	購入電力		kWh	13,524.00	±3%	13,524.00	13,832	2.28%	○
	ＬＰガス		kg	6.90	±3%	6.90	5.9	−14.49%	○
	ガソリン		ﾘｯﾄﾙ	5,876.33	±3%	5,876.33	6,955.50	18.36%	△
	軽油		ﾘｯﾄﾙ	8,498.44	±3%	8,498.44	6,277.71	−26.13%	○
②　棄物排出量及び廃棄物最終処分量	産業廃棄物	木くず	t	122.02	±3%	122.02	94.128	−22.86%	○
		AS・CO	t	0.07	±3%	0.07	0.2	200.0%	△
		金属くず	t	0.05	±3%	0.05	0.625	1150%	△
		廃プラスチック	t	0.33	±3%	0.33	0.05	−84.85%	○
		混合	t	3.99	±3%	3.99	1.352	−66.14%	○
		計	t	126.67	±3%	126.67	96.35	−23.93%	○
	一般廃棄物	燃えるゴミ	kg	104.13	±3%	104.13	81.2	−22.02%	○
		プラスチック	kg	10.80	±3%	10.80	9.4	−12.96%	○
		ＰＥＴ	kg	8.50	±3%	8.50	18.3	115.29	×
		不燃物	kg	5.33	±3%	5.33	5.5	3.13%	△
		雑誌・ダンボール	kg	52.67	±3%	52.67	42	−20.25%	○
		計	kg	181.43	±3%	181.43	156.4	−13.8%	○
③　水使用量	上水		m^3	86.67	±3%	86.67	58	−33.08%	○
④　化学物質使用量農薬	PRTR 制度対象物質		kg	7.83	±3%	7.83	72.47	825.94%	×
	全量			94.66	±3%	94.66	121.55	28.41%	△
⑤　紙資源等使用量	紙（コピー用紙）		kg	46.67	±3%	46.67	40	−14.29%	○
⑥　グリーン購入	文具など事務用品品目数の割合	ねっと	%	50.17	±3%	50.17	36.6	−27.04%	△
		G 法	%	51.07	±3%	51.07	36.6	−28.33%	△
⑦　環境に配慮した施工提案数			件	7.33	+3%	7.55			

※二酸化炭素排出係数は、中部電力（株）2019 年度実績の 0.426kg-CO2/kWh を使用しました。

※グリーン購入の「ねっと」は『エコ商品ねっと掲載』商品、「G法」は『グリーン購入法適合』商品です。

６．環境事業の実績

環境理念にある、緑地整備事業・自然環境復元事業を通じて、自然の営みに配慮した循環型社会の構築をしていくために、当社が取り組んでいる緑化推進などの結果や実績を以下に述べる。

（１）緑化推進実績量の目標と結果

	単位	2020 年度（実績）	2021 年度（実績）	2022 年度（実績）	2020 年～2022 年の平均値（基準）	2023 度（実績）	基準との比較
樹木（高木）	本	174	41	189	134.67	39	-71.04%
（低木）	本	2,599	323	7,923	3,615.00	129	-96.43%
地被類（草花など）	株	15,639	1,383	6,161	7,727.67	466	-93.97%
芝	㎡	1,840	51,475	1,079	18,123.67	222	-98.78%

防潮堤の植栽工事があったため、樹木植栽の実績量が増加しました。
二酸化炭素を固定する役割を担った植物量を増やすことにより、温暖化改善の一助になることを期待したい。

（２）ビオトープ関連事業の実績

① ビオトープ／自然環境復元　設計・施工

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
計画・調査・設計	0	3	6	1
施工・造成	6	7	1	0

事例：2022 年度

計画	小学校ビオトープ整備（神奈川県）

② ビオトープ維持管理工事

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
公共	2	2	2	2
民間	4	4	6	6

事例：2022 年度

公共	市民の森ビオトープガーデン（静岡県藤枝市） 小学校ビオトープ（焼津市）
民間	マンション緑地ビオトープ（神奈川県） 機械メーカー工場ビオトープ（静岡県湖西市） 幼稚園ビオトープ（千葉県） 工場ビオトープ（御殿場市） 住宅会社工場ビオトープ（埼玉県） 多自然型庭園（茨城県）

７．環境経営計画の取組結果の評価と次年度の取り組み内容

①　中間確認評価（上半期）

取組実施状況の確認日　：　令和５年５月25日

項目	評価	取組実施状況の確認	担当
①　化石燃料・燃費	例年より少ない使用量である。	○	杉山高史
②　電気・ガス	例年より少ない使用量である。	○	櫻井僚
③　一般廃棄物	例年並みの排出量である。	○	杉山高史
④　水量	散水用に使用したため、使用量が増加した。	△	櫻井僚

②　年間確認評価と次年度の取り組み

取組実施状況の確認日　：　令和５年10月11日

項目	評価	取組実施状況の確認	担当
①二酸化炭素排出量の削減	＊化石燃料使用量の削減 新型感染症の影響で、取引先への出張や工事の減少があり、走行距離とともに作業車のガソリン・軽油の使用量が減少したが、作業車意義の工事車両や機械に使用するガソリン量が増加した。 エコドライブは定着したと考える。意識向上のため、給油時の燃費記録の記述を継続していく。	△	杉山高史
	＊電気・ガス使用量の削減 電気量・ガス使用量ともに昨年よりやや増加したが、平年並みの範囲である。無駄な使用をなくす取り組みを継続していきたい。	○	櫻井僚
②廃棄物排出量の削減	＊廃棄物の適正な処分と排出量の削減 一般廃棄物、産業廃棄物ともに、昨年よりやや増加したが平年並みの排出量である。廃棄物の処理は適正に行われていている。 今後も分別の徹底と適正な処分を継続していきたい。	○	杉山高史

（続く）

（続き）

項目	評価	取組実施状況の確認	担当
③　水量の削減	前半期の散水による増加によって年間水量は増加したが、それ以外の時期は平年並みである。突発的な使用を除けば平年並みと考える。節水と野外水道栓の締め忘れを徹底するようにする。	○	櫻井僚
④　化学物質の利用削減	農薬類の使用量全量、規制化学物質量ともに増加した。使用量は平年並みだが、PRTR 法の改正で規制物質が増加したため、規制化学物質量が大きく増加した。 民間の病害虫発生時は、人力防除やスポット的な薬剤散布を行い、使用量の削減を推進していく。農薬の使用量を管理し、適正な使用方法と使用量の意識付けを図っていく。各薬剤の SDS を管理している。	△	杉山高史
⑤　資源使用量（コピー用紙）	＊コピー用紙の使用量の削減 受信ファックスの電子化や、印刷プレビューの徹底や両面印刷などを徹底して、現状を維持していきたい。	○	櫻井僚
⑥　グリーン購入の推奨	エコ商品ねっと掲載、グリーン購入法適合製品ともに、平年並みの購入であると考えられる。事務用品の品目の大きな変化はない。	○	櫻井僚
⑧環境に配慮した事業の推進	＊緑化推進実績量の増加 大規模な苗木の植栽工事があったため、低木類の植栽量が多かった。芝生は平年並み、高木・低木・地被類の植栽量は昨年より増加した。今後も緑化を推進する営業を積極的に行って、緑化実績量を増やしていきたい。	○	櫻井僚
	＊地域貢献活動 例年おこなわれていた観察会や講演会が、新型感染症の影響で中止になり、低調であった。	△	櫻井僚

８．地域（社会）貢献活動（２０２３年度）

（１）　活動内容（環境教育・啓発活動など）

①　10 月に行われたライオンズクラブの自然環境イベントで、観察会と草木遊びの協力をしました。

②　（NPO 法人日本ビオトープ協会の活動）6 月に行われたホタル関連イベントで、環境教育の講義と草木や木の実を使った工作の指導を行いました。

③　日本テレビ系列で放送されている「鉄腕ダッシュ」の番組内で企画されている新宿の屋上池「新宿ダッシュ」に施工技術協力を続けています。

１０．環境関連法規への対応などの順守状況の確認及び評価の結果並びに違反訴訟などの有無

（1）環境関連法規の取りまとめ表に基づき順守状況及び評価結果を確認した結果違反はありませんでした。
環境管理責任者：杉山高史

法律名	適用項目		遵守状況
建設リサイクル法	特定建設資材の再資源化促進	適正な処分	○23.10.4
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物収集運搬業の届出と更新	5年毎の更新	○23.10.4
	廃棄物収集・運搬及び処分業者との委託および受託契約	契約の締結	○23.10.4
	マニフェストの運用・管理・保管	適正な実施	○23.10.4
	マニフェストの期間内返却の確認	返却の確認	○23.10.4
	投棄禁止	不法投棄を行なわない 現場管理者・作業員教育	○23.10.4
	廃棄物の悪臭・飛散防止	仮置場や荷台の養生 現場管理者・作業員教育	○23.10.4
静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例	廃棄物処理委託業者の施設の確認を年1回おこない、確認記録を5年間保管する。	施設の確認実施 記録の保管	○23.10.4
農薬取締法	使用基準に従った農薬の使用	農薬の適正使用 使用薬剤MSDSの管理 使用量の管理	○23.10.4
毒物劇物取締法	農薬の適正な保管	適正な保管	○23.10.4
ＰＲＴＲ法	農薬の特定化学物質の含有量の確認	SDSの確認	○23.10.4
労働安全衛生法	定期健康診断	毎年実施および 実施結果記録保管	○23.10.4
フロン排出抑制法	業務用エアコンの点検	年１回　簡易点検手引きによる点検	○23.10.4
騒音規制法	特定施設（空気圧縮機及び送風機） 原動機の定格出力７．５kW以上	使用圧縮機 出力規模の確認	○23.10.4
静岡県生活環境の保全等に関する条例	特定施設（空気圧縮機及び送風機） 原動機の定格出力３．７５kW以上	使用届出済	○23.10.4
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律	希少動植物の保護	管理しているビオトープにおいて調査・保全対策	○23.10.4

（２）違反や訴訟等の有無

関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟や苦情は過去3年間ありませんでした。

１０．代表者による全体の評価と見直し・指示

エコアクション２１の認定を受け、積極的に環境経営に取り組んできました。石油燃料価格の高騰、電気料金の高騰など環境だけでなく生活に影響を与える様々な問題がある中で、弊社としても年々行っている環境経営は従業員に浸透しつつあります。燃料使用の削減や節電など、年々差はありますが、一定の効果が得られていると実感していますので、今後も継続して取り組みを続けていきます。

また、2016 年より継続して取り組んでいるＳＤＧｓの研究活動も、環境目標であります「6. 水の保全・13. 気候変動・14. 陸の生態系・15. 海の生態系」を保全する活動に事業を通じて取り組み、持続可能な地域循環型社会の創出に寄与できればと考えております。

特に身近な問題として、ごみの排出量が挙げられます。事業ゴミを減らす取り組みの他、排出木材は焼却ではなくチッピングし、園路舗装等に使用するなどしています。これらを通じて、社内での３Ｒ活動を意識しながら行動していきます。

人々のの生活がコロナ禍から戻っていく中、所謂「自然」というものに対しての関心は大きく変わったと感じております。自然に身近に触れられる場所である公園や緑地など存在は今後さらに注目され、それらの利用に関しても今までとは違ったアプローチのものがでてくるかもしれません。弊社としましても、これは大きなチャンスと考えております。今まで培ってきた造園・ビオトープのノウハウを生かしながら、今ある緑地・公園といったハードを使い、自然観察や体験学習などのソフト面の事業や、新たな緑地の創出など、業務の拡大を計っていきます。

評価年月日　：　令和 5 年 10 月 10 日
代表取締役　　櫻井　淳